

「成田文庫」開設に寄せて

私が外国の文献を収集し始めた動機は、ドイツ体育史研究、特にグーツムーツを中心とするドイツの近代体育の成立過程の研究でしたから、私が文献収集で最も力を入れたのはそこにあります。

私は「ドイツ体育史研究者」と位置付けられていますから、多分、「成田文庫」に興味を持つ生徒や研究者には、そのあたりに関心があると思います。

東京教育大学体育学部では、私たちの頃は2年の終わりに所属研究室を決めることになっていました。私は旧制中学時代から杉正俊著「郷愁記」の影響で京都大学の哲学に興味を持っていましたので、最初前川先生の「体育原論研究室」と思いましたが、最終的には歴史の研究が自分の好みにあうと考え、「体育史研究室」に決めました。

ある日、体育史研究室を見に行くと、壁の書棚にぎっしり詰まった書物の中に、特に目を引く装丁の「ドイツ体育史資料集」(Quellenbücher der Leibesübungen)がありました。

その中で一番分厚い本をとると、GUTSMUTHS : Gymnastik für die Jugendとありました。

そのとたん、私は「よし、これだ、これを中心に卒論を書こう」と決めました。

その理由は、1)旧制中学時代から抱いていたドイツへのあこがれと、2)今村先生の本や講義で学んだ「ドイツのグーツムーツのギムナスチック本が世界の各国で翻訳され、それらの国々の近代体育のもとになった」という教えでした。

この時、毎日3時間この原書を翻訳し、これを中心に卒論を書くという決心をしました。

それ以後サッカーの全日本候補の合宿でも、この決心を守りました。この合宿では、後の日本のサッカーを世界的にした長沼健さんや岡野俊一郎さんと同部屋でしたから、少々気が引けましたが。

2年余りかけた卒論のテーマは「グーツムーツの体育思想の研究」でしたが、当時日本ではこの本以外にグーツムーツの「国民体育」「遊戯」「水泳」「地理の教科書」等などの著作はもとより、ノイエンドルフの大著以外に優れた先行研究文献は入手できませんでした。

5か年の大学院博士課程を出た年、ケルン体育大学のディーム学長から奨学金を得て、憧れのドイツに留学し、大学の図書館でグーツムーツの膨大な原典著作やグーツムーツに関する膨大な先行研究に触れたとき、私はただただ呆然とするばかりでした。

当時は戦争後の事で古本屋もあまり整備されておらず、その上あったとしても値段はべらぼうに高く、わずかな奨学金ではとても買うことなどできませんでした。

結局、私は持参したアサヒペンタックスを三脚に固定し、図書館から借りた膨大な原典資料と重要な先行研究論文を1ページごとに複写し、そのフィルムを日本に持ち帰り、東大の図書館で1ページごとに焼きつけることにしました。

外国の体育史研究、特にドイツと関係のある国々の近代体育に関係する原典資料と博士論文を中心とする優れた先行研究を毎日毎日複写し続けました。寒いドイツの冬でした。

それ等はすべて「成田文庫」にあります。

私はチェコのプラハ大学体育機構長クラツキー博士に提案し、ローマオリンピックの時に設立されたユネスコの「国際スポーツ科学・体育協議会」(ICSSPE)の中に「国際スポーツ・体育史委員会」(ICOSH)を設立することに1967年に成功し、副会長として毎年世界各国の国際会議に出席することになったことと、「ドイツ近・現代体育史研究というライフワーク」を設定したことによって、18世紀以後のドイツ体育史に関する資料とドイツ体育に影響を与えたイギリスのスポーツ、北欧のギムナスチック、チェコのソコール、アメリカの体育などの資料の収集のため、各国の図書館や古書店を回ることに全力を上げることになりました。

もう一つ、西ドイツのボン大学体育機構長で体育史家ヴィルト博士の遺言で、博士の貴重な所蔵資料を譲りうけることになりました。

こうして集めた文献や関係資料は全て「成田文庫」に寄贈いたしました。



寄贈者 成田十次郎氏
(筑波大学名誉教授)

2020年11月10日 成田十次郎

成田十次郎氏略歴

1933年高知県生まれ。筑波大学名誉教授、教育学博士。東京教育大学体育学部卒、東京大学大学院人文科学研究科修士課程(体育学専攻)修了、東京大学大学院博士課程満期退学。筑波大学教授、高知県立高知女子大学学長、日本体育学会会長、国際体育・スポーツ学会アジア部長などを歴任した。学生時代はサッカー日本代表候補に選ばれた。東京教育大学サッカー一部監督、読売サッカークラブ初代監督、高知県サッカー協会会長、四国サッカー協会会長などをつとめた。